



地域社会の発展に寄与

東北建設マネジメント技術協会
創立5周年記念式典開く

東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)が2018年11月の設立から5年の節目を迎えた。14日に仙台市内で記念式典を開いた。写真。発注者支援業務などに携わる会員24社(正会員21社、賛助会員3社)で構成。秋葉代表理事

は「建設マネジメント技術の研さんと振興、人材育成を推進し安全・安心と活力に満ちた地域社の発展に寄与できるように活動する」としている。

記念式典で東北地方整備局の宮本健也企画部長が「これまでの経験を東北のために」と題して講演した。続いて祝賀会を開き、山本巧局長や宮本企画部長、木村康博道路部長、成田秋義

河川部長ら東北整備局の幹部、会員会社の代表らが出席し5周年を祝った。

山本局長は「皆さまの力添えは整備局の業務になくてはならない。(働き方改革などで)事務所や現場は変わってきている。今までの技術を守りつつ新しいことに果敢に挑戦し業務の効率化などに役立ててほしい」などとあいさつした。

社会基盤整備の充実に貢献

東北マネ技協が5周年式典



あいさつする秋葉代表理事



祝辞を述べる山本局長

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）が創立5周年を迎え、14日、仙台市内のパレスへいあんで記念式典が開かれた。会員と山本巧東北地方整備局長を始めとする来賓など、合わせて約70人の出席者が節目を祝うとともに、東北地方の社会資本整備に一体となって貢献していくことを誓い合った。

同協会は、2007年に任意団体の協議会として結成され、18年11月に一般社団法人に組織改革して現在に至っている。この間、技術者の技術力向上のための研修や写真パネル展などの広報活動などに取り組みながら、発注者支援業務を通じて東北地方の社会資本整備に貢献してきている。

表理事は、「これまでの活動などを振り返りつつ「発足以来、東北地方の社会基盤整備の充実に目的に、発注者とともに取り組んできた。会員各社は本日を契機としてこれまで以上に万難を排して努力を続け、より良い発注者支援業務などを誠実に実施していく」と決意を述べた。

祝辞を述べた山本局長は「今までの技術を守っていくことも大切だが、働き方改革や書類簡素化、DX（デジタルトランスフォーメーション）、BIM/CIMなどの新しい技術に果敢にチャレンジし、習得して業務の効率化につなげてほしい」と呼び掛けた。

この後、同整備局の宮本健也企画部長の音頭で乾杯し、5年の節目を祝うとともに、協会のさらなる発展に向けて決意を新たにした。

東北建設マネジ協

社会資本充実へ発注者支援

創立5周年記念式典

東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)は14日、仙台市のバレスへいあんで創立5周年記念式典を開催し、来賓を含め約60人が節目を祝福した。冒頭、秋葉理事長は「早

いもので5年の歳月が経過した。当協会は発注以来、東北地方の社会資本整備の充実を目的に発注者とともに取り組んできた。これまでに以上に努力を続け、より良い発注者支援を行いたい」とあいさつした。

来賓の山本巧東北地方整備局長は発注者支援業務への協力に謝辞を述べた上で、「今までの技術を守ることも大切だが、働き方改革に伴う書類簡素化、DXなど新しい技術にも果敢にチャレンジし効率化につな



秋葉代表理事



山本局長

げてほしい」と要望した。

同協会は2007年に結成した任意団体が建設マネジメント技術の研さん、人材育成を目的に組織を改革し18年11月に設立。現在は正会員21社と賛助会員3社で技術向上を目的とした研修、人材育成協議会への参画、広報活動、担い手確保に向けた活動を展開している。

また、東北の安全・安心に寄与するため、13社・52人が防災エキスパートに登録している。